

7-2. 養殖事業展開可能性調査（キジハタ）

担 当：山本健也・松田成史（養殖・漁場環境室）

実施期間：平成 25 年度～（平成 27 年度予算額：9,820 千円のうち一部）

目的・意義・目標設定：

取り組みの成果

1) 目的

鳥取県で進めている陸上養殖に資するために、閉鎖循環系によるキジハタの陸上養殖について実際に飼育を行い、養殖技術の確立及び、それらに係るコスト等を検討し、事業展開の可能性について検討する。

平成 27 年度は、①閉鎖循環式陸上養殖試験としてキジハタ飼育可能密度の検討、②最適な養殖手法の検討を行う。

2) 方法

①キジハタの閉鎖循環式陸上養殖試験

閉鎖循環式陸上養殖において、キジハタの飼育可能密度を検討するため、4kl の飼育水槽にキジハタ種苗を収容し、飼育試験を実施した。年間を通じて、25℃以上に水温を維持するため、濾過槽にチタンヒータを導入して加温した。キジハタ種苗は(公財)鳥取県栽培漁業協会に委託して生産されたものを用いた。飼育群の成長を把握するため、毎月 1 回測定を行った。なお、飼育結果は、養殖にかかるコストを算出するための資料とした。

②半閉鎖循環式陸上養殖試験に取り組む業者に対する指導

県内において、半閉鎖循環式陸上養殖試験に取り組む業者に対し、飼育指導を行った。

3) 結果

①キジハタの閉鎖循環式陸上養殖試験

表 1 に養殖試験の結果を示した。

試験期間中の飼育水温は、平均 26.6℃だった。なお、2015 年 12 月 23 日と 24 日にヒーターのトラブルがあり、当日の飼育水温がそれぞれ 20.8℃、21.0℃となった。それ以外の日の最低水温は 23.0℃、最高水温は 32.5℃であった。

2015 年 6 月 11 日に平均全長 181.2mm、平均体重 110.0g の種苗 1,123 尾を飼育水槽に収容した。試験開始時の飼育密度は 30.9kg/kl、終了時のそれは 58.0kg/kl であった。今回の試験において、飼育魚の成長が 2015 年 12 月 10 日以降停滞したが、原因は不明である。

養殖試験は次年度も継続し、キジハタ養殖の可能性を検討する。

②半閉鎖循環式陸上養殖試験に取り組む業者に対する指導

毎月 1 回、キジハタの半閉鎖循環式陸上養殖試験に取り組む業者に対し、飼育指導を行うとともにキジハタの成長を把握するための測定を行った。また、販売状況について聞き取りを行った。測定データ等は、採算性等を検討するための材料とした。

4) 成果と課題

キジハタの閉鎖循環式陸上養殖の可能性を検討するため、養殖試験により飼育可能密度を把握するための試験を実施した。

飼育期間中に成長が停滞した。引き続き養殖試験を継続し、成長が停滞した原因を探るとともに、採算性を検討するための飼育データを収集する必要がある。

II. H27 成果 7-2 養殖事業展開可能性調査(キジハタ)

表1 養殖試験の結果

年月日	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	飼育尾数 (尾)	総重量 (kg)	飼育密度 (kg/k1)
2015年6月11日	181.2	110.0	1,123	124	30.9
2015年7月14日	187.8	122.1	1,099	134	33.5
2015年8月11日	189.8	127.0	1,099	140	34.9
2015年9月11日	203.8	154.4	1,096	169	42.3
2015年10月9日	204.0	162.1	1,096	178	44.4
2015年11月10日	212.9	181.7	1,094	199	49.7
2015年12月10日	222.4	211.3	1,093	231	57.7
2016年1月12日	223.9	210.7	1,083	228	57.0
2016年2月9日	225.9	219.2	1,081	237	59.2
2016年3月10日	227.9	215.5	1,077	232	58.0